

(11) 中学校美術部会

会 長 山崎 源生 (県立中村中)
副会長 岸本 和幸 (中村西中)
事務局 岩井 崇通 (西土佐中)

1. 研究主題 「豊かな感性と創造性を育て、表現力を高める造形教育」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和5年 5月9日(火)	四万十市教育研究会 組織総会 内 容 「役員選出、研究主題設定、年間計画」	中村中学校	6名参加
7月28日(金)	第1回 学習会 (講義・作品交流会) 講義内容 「篆刻の柱のデザインを考える」 講 師 尾崎 浩史 先生 (中村中) 交流内容 「生徒作品を用いての交流」	中村中学校	6名参加

3. 第1回学習会 (講義・作品交流会)

○講義内容「篆刻の柱のデザインを考える」

本会の会員である尾崎先生に「篆刻の柱のデザインを考える」というテーマで講話をしていただいた。篆刻とは、「印材に印を刻す」ことである。中学校の授業では印材に、比較的やわらかく細工が簡単な高蠟石を使うことが多い。しかし、柔らかいと言っても石なので形を作り出すことは容易ではない。また、柱は立体彫刻なので平面的なデザインと違って難しく苦手な生徒もいる。そこで柱のデザインを考える際に油粘土を使用して、平面だけでなく立体的にアイデアを練る方法を提案してくれた。パワーポイントや実物の参考作品等を用いてわかりやすい説明であった。また粘土を加工するための道具として、市販のヘラに加え粘土を切る手製の道具等もあり参考になった。尾崎先生の長年の経験から生み出された細かな工夫や指導方法が蓄積されており、創造性を育て表現力を高める造形教育に向けて中身のある講義であった。



○作品交流会

昨年度に引き続き免許外担当の教員から、教育文化展や子ども県展に出品する絵画作品を見てもらいたいとの意見があり、持ち寄った生徒作品を1枚ずつ全員で評価しながら細かなアドバイスを行った。免許外の教員が指導した作品も丁寧にしっかりと描き込まれている作品が多くあり、構図や彩色、制作時間などについて積極的な意見交換がなされ有意義な時間であった。

4. 今年度の成果と課題

外部からの講師招聘等はできなかったが、美術の専門教員と免許外教員と一緒に研修をすることで、免許外教員の専門性は深まり、専門の教員にとっては免許外の教員の何気ない一言や疑問から、改めて気づくことも多く実りある会であった。